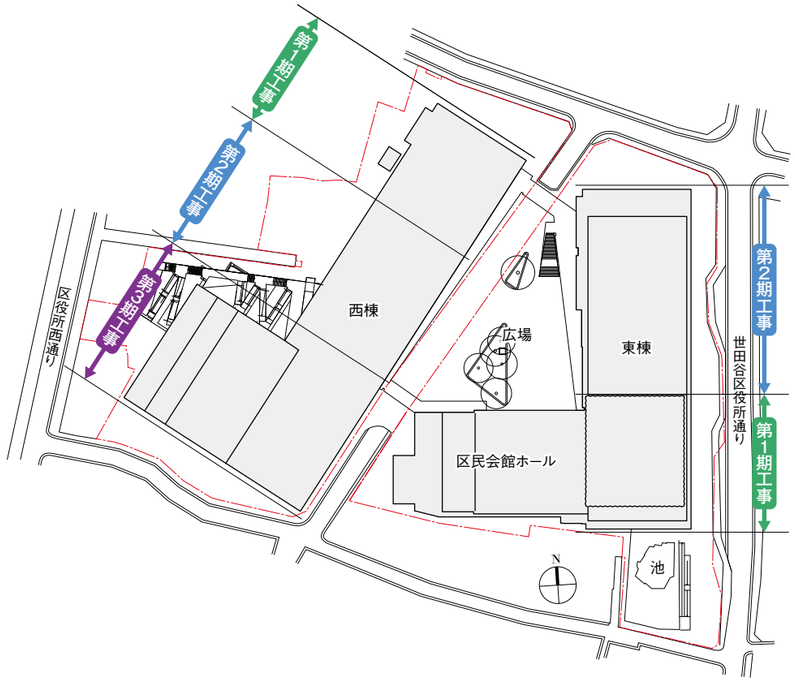
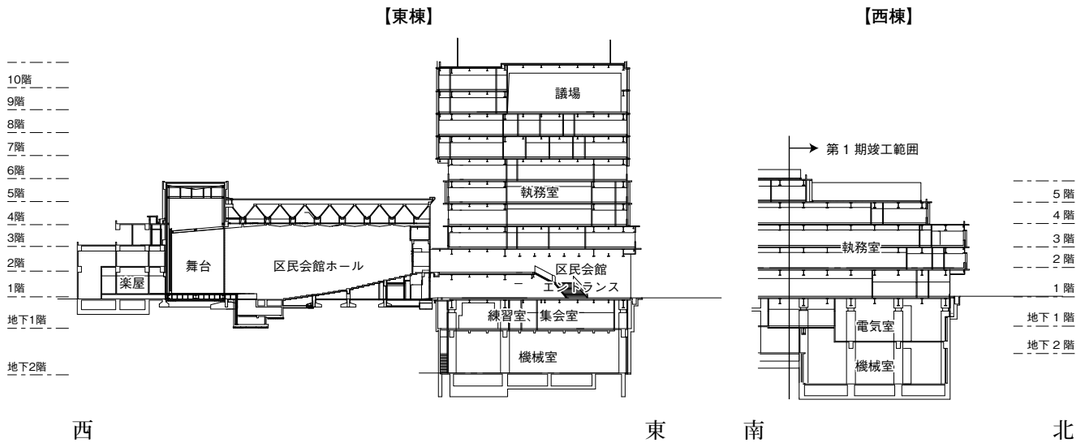
世田谷区本庁舎：工事範囲図

世田谷区本庁舎配置図（完成時） 1/2,000



世田谷区本庁舎　第１期工事竣工部分断面図　1/1,000



建物概要

- 工事名称　世田谷区本庁舎等整備工事
- 工事場所　東京都世田谷区世田谷 4-21（東棟）、22（西棟）
- 発注者　世田谷区
- 設計者　株式会社佐藤総合計画
- 工事監理者　株式会社佐藤総合計画／世田谷区
- 施工者　大成建設株式会社東京支店
- 第１期工事
  令和３（2021）年７月15日～令和６（2024）年３月29日（32.5か月）

	東棟	西棟
敷地面積	11,036.22㎡	10,537.51㎡
建築面積	6,394.53㎡	6,906.75㎡
延床面積	36,394.42㎡（1期工事：17,839.08㎡）	36,868.69㎡（1期工事：6,570.76㎡）
構　造	地下：鉄筋コンクリート造 （一部鉄骨鉄筋コンクリート造） 地上：鉄骨造 ※地下1階柱頭免震構造	地下：鉄筋コンクリート造 （一部鉄骨鉄筋コンクリート造） 地上：鉄骨造 ※地下1階・地下2階柱頭免震構造
規　模	地下2階、地上10階	地下2階、地上5階
最高高さ	40.804 m	22.108 m

発行：令和６年４月
世田谷区庁舎整備担当部

世田谷区本庁舎

第１期工事竣工

世田谷区
SETAGAYA CITY

世田谷区本庁舎

西棟エレベーターホール。執務室に連続する木ルーバーによる設えとして落ち着きのある空間としています。

西棟 2 階ロビー。

東棟 10 階展望ロビー。

完成予想パース。

東京都内最大の人口を擁する世田谷区の行政拠点である世田谷区本庁舎等の整備第 1 期工事が、令和 6（2024）年 3 月に竣工しました。

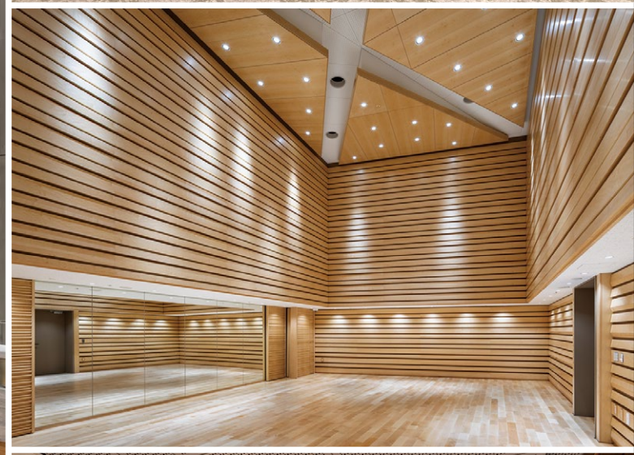
新庁舎では、建築家・前川國男（明治 38（1905）年〜昭和 61（1986）年）が設計した旧庁舎・区民会館の空間特質をできるだけ継承することが基本構想に盛り込まれたことを受け、誰もが自由に訪れることができる広場を庁舎の中心に設け、旧庁舎の特徴を引き継ぎます。さらに広場の周囲には、東棟と西棟に分かれた庁舎をつなぐ立体的なテラス空間を設け、活動の幅を広げます。

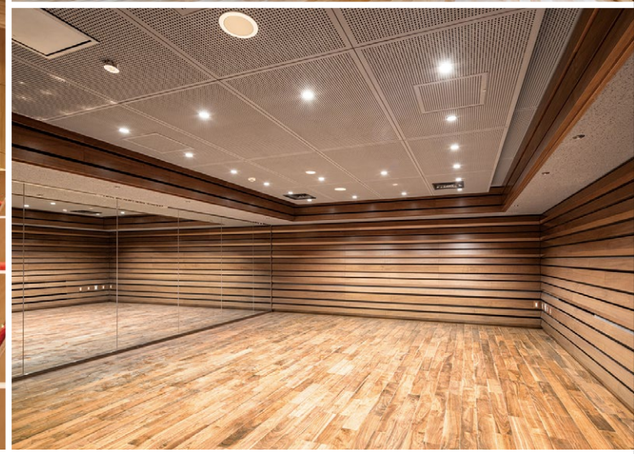
「区民会館」は、ホール部分を保存、改修し、使い勝手や耐震性能、音響等を向上させ、地下には新たに練習室を設けました。今後も区民の文化的な活動拠点として活用していきます。

本パンフレットでは、第 1 期工事で完成した、新たな執務室や議場、区民会館の様子を紹介します。

❶ 9 階の議場。議席は 50 席。区民会館ホールの折板構造をモチーフとしています。❷議場は吹抜け空間とし、やわらかな光で均一に明るくなる光幕照明を採用しています。❸議員席上部 10 階の傍聴席は 93 席。❹親子傍聴室。親子でも周囲を気にせず傍聴できる席を設けました。

世田谷区民会館





世田谷区民会館は、建築家・前川國男の設計により、昭和 34（1959）年に竣工しました。前川國男の下で区民会館の設計に携わった鬼頭梓が、区民会館の特徴について「コンクリートの構造をそのまま意匠として使い、さらに音響的な面でも一致させようとしたことである」（『建築』昭和 36（1961）年 6 月号）と述べているように、この建物はジグザグに折り曲げた板状の鉄筋コンクリートによる「折板構造」の外観が、そのまま柱のない内部空間に反映されている特徴的な施設です。

本工事では、ホール部分を全面的に保存改修し、新たにエントランスホールやホワイエを設けました。竣工から 60 年以上が経過しましたが、今後も、区民の皆様に質の高い文化・芸術活動に親しみ、活用いただけるよう、改修を行いました。

ホールの改修にあたっては、特徴的な折板構造をそのまま保存しながら、音の響きや遮音性能の向上を行い、客席は座席の幅、奥行を従来より広げました。また、客席最前列及び最後列に、固定席を取り外すことで車いす使用者用の客席となるスペースを設け、ホワイエから車いす客席に至る経路を上手、下手に新たに設けました。

音響面では、天井、壁面の形状や材質を見直し、舞台での演奏がバランスよく客席に伝わるようにしました。舞台上には、可動式の音響反射板を備え、生音の音楽演奏や合唱に対応します。また、客席最前部を可動式の前舞台として拡張できる設えとし、大編成での演奏にも対応可能としました。舞台機構は、転換を行いやすいよう電動による操作を主とし、幕構成も、これまでの利用状況を踏まえて耐荷重・速度のスペックアップを図った計画としています。

バックヤードの機能の充実も図りました。楽屋には専用エレベーターを設け、ユニバーサルデザインに配慮。そのほか搬入口に近接した位置に備品庫を設け、使い勝手を良くしました。

❶

❷

❸

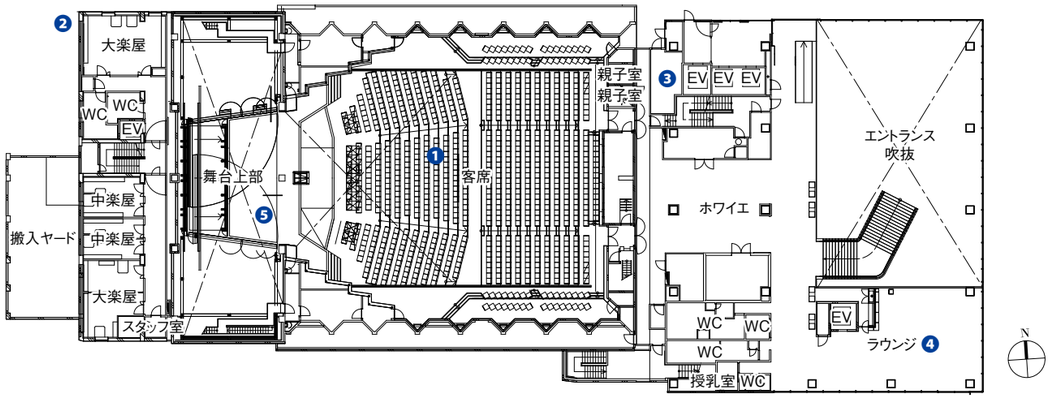
❹

❶座席数は、改修前の 1200 席から、933 席（舞台拡張時 902 席）とし、座席空間を広くしました。車いす席は、客席の一部を取り外すことにより 12 席確保できます。❷ホワイエ。グレーを基調とした色彩計画により、落ち着きのある空間としています。❸練習室 A。天井が高く、明るい色調の木パネルを用いた空間。生音による練習やリハーサルに最適。❹練習室 B。落ち着いた色調の木パネルを用いた空間。バンド練習などに最適。

世田谷区民会館：改修と復原

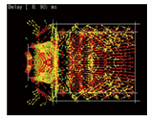
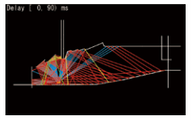
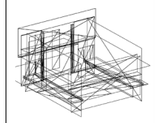
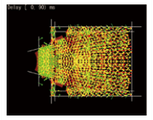
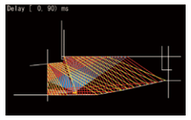
旧第 1 庁舎 1 階の吹抜けに施されていた、大沢昌助デザインのレリーフを、区民会館のエントランスホールに 70%のサイズ、竣工当時の色彩で復原しました。
奥の大階段は、旧区民会館ホワイエの大階段を復原したものです。

世田谷区民会館 2 階平面図　1/600

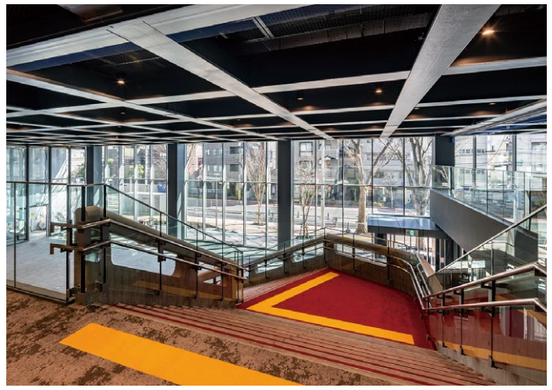


旧第一庁舎設計当時、昭和を代表する洋画家、大沢昌助が、設計者の前川國男の依頼を受け、吹抜け空間に合わせて描いたレリーフの原画。

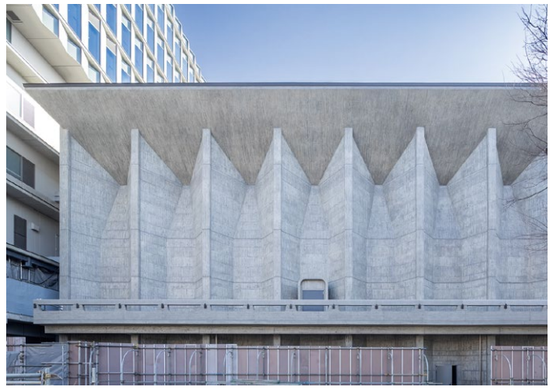
❶ ホールの音響性能、遮音性能を向上させました。残響時間は、空席測定値で改修前の 1.7 秒から、2.0 秒（舞台条件：前舞台設置、反射板大編成）となりました。❷ 新築した楽屋棟には、楽屋専用のトイレ・シャワー室を設けました。楽屋は大中小サイズを各 2 室（大中の楽屋は分割使用可能）設け、室内には、化粧台、洗面台、更衣スペースを設えました。❸ 客席の後方に防音性に配慮した親子室を 2 室設けました。❹ ラウンジは、公演前や幕間での利用を想定しています。❺ 可動式の音響反射板は、使用しないときは、舞台後部及び上部に格納されます。

	パース	反射音分布（平面図）	音線図（断面図）
改修前			
改修後			

改修前と改修後の音響シミュレーション。改修後は初期反射音（黄色）がホール全体に分布しています。



区民会館の 2 階ホワイエから見たエントランスホール。復原した大階段の赤じゅうたんが鮮やかに空間を彩ります。



改修を終えた外壁。耐候性を向上させ、熟練工の作業により建設当時の姿に復原しました。

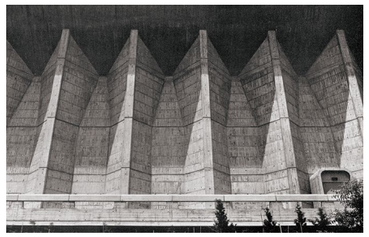
新築した本庁舎と改修を終えた区民会館。折板の外観を継承しました。

世田谷区庁舎のこと

前川建築設計事務所
代表取締役所長　橋本 功

橋本功（はしもと いさお）昭和 45（1970）年日本大学理工学部建築学科卒業。同年前川國男建築設計事務所入所。平成 12（2000）年代表取締役所長に就任、現在に至る。

前川國男が区庁舎の設計を手がけた 1950 年代後半の世田谷区は、住民の数も少なく緑の多い閑静な住宅街でした。前川の頭の中では、その地に集会場や結婚式場、図書館や食堂などの機能を持つ複合的な施設を創ろう、そして住民が三々五々集まる「森の中にあるシティホール」を目指そうという心づもりがあったと思います。今ではごく普通の考え方ですが、当時は市民に開かれた公共建築はまだめずらしかったのです。そこに前川建築の本領があったといえるでしょう。建築は社会と密接な関係性にありその時々の時代の要請に合わせてかたちを変えてゆくものです。その点、真の意味で前川建築の精神を継承することになるのは大沢昌助さんのレリーフだと考えます。レリーフのある壁面にはモダニズム建築の息吹が感じられるからです。竣工当初の姿になって甦るというよりは、まったく新しいものとして生まれ変わりました。それは新たな区庁舎のシンボルとしても永遠の輝きを放ち続けてくれることでしょう。

区民会館：竣工当時の姿

右 2 点：『建築文化』昭和 34（1959）年 7 月号より（撮影：村沢文雄）、左：『建築』昭和 36（1961）年 6 月号より（撮影：渡辺義雄）